

# 令和3年度 学校努力点について

## 1 名古屋市学校教育努力目標

### なかまと学び 夢を創る

- すべての子どもに対し、一人一人に応じた個別最適化された学びを提供し、主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業改善を推進する。
- 子どもがキャリア教育を含む多様な学びを通して自分のよさに気づき、夢を抱き、その実現に向かって自他を大切にしながらたくましく生きることができるようにする。

## 2 本校教育目標（校訓）

- |     |                           |
|-----|---------------------------|
| 清 心 | 強い意志と清らかで素直な心をもつ生徒の育成を図る。 |
| 自 学 | 自ら学ぶ態度をもつ生徒の育成を図る。        |
| 実 践 | 丈夫な身体をもち、自ら実践する生徒の育成を図る。  |

## 3 本年度の学校努力点とその推進計画

### (1) 本年度の学校努力点テーマ

#### 認め高め合う力、通い合う心

－仲間との対話を大切にして、主体的に取り組む活動を通して－

### (2) テーマ設定の理由

ここ数年間、「人間関係能力の育成」、「自己肯定感・自己有用感の育成」、「対話を重視した主体的に学ぶ力の育成や学びの場の工夫」を土台にして、学習活動やあいさつ活動などを行うことができる生徒の育成を目指した。各指導部会で目標とする生徒の姿を決め、それぞれの部会で手だてを講じて、実践を行った。その結果、教職員のほとんどから、「手立ては有効に機能している」「目標とする生徒に近づけることができた」といった回答を得ることができた。また、保護者のほとんどの方からも、「学校は努力点に関わる指導の工夫を適切にしている」といった回答を得ることができた。

しかし、学習面では「仲間の考えを知ることはできたが、その考えを十分に活用するところまでは至らなかった」、生活面では「あいさつはできるが、あいさつの意義や必要性を実感させるところまでは至らなかった」、特別活動面では「仲間の考えや良さを伝えることはできたが、学級内の活動に留まった」、健康安全面では「仲間のことは意識しているものの、特定の内容（防災・防犯）に対しての意識が低い」といった課題が残り、互いの良さを理解し、評価しようとしているものの、見通しや目的意識をもって、主体的に取り組むことができている生徒が見られた。また、家族や地域との希薄な関係から、自己有用感や自己肯定感の低さが気になる生徒もいる。このような実態を踏まえて、学校生活や家庭生活、地域との関わりの中で、互いに関心をもったり、コミュニケーションを図ったりする仲間との対話の場面を数多く設け、仲間との対話を通して、主体的に取り組むことができる生徒の育成を目指したいと考えた。

そこで、今年度の到達目標を、「認め高め合う力、通い合う心－仲間との対話を大切にして、主体的に取り組む活動を通して－」を掲げることとした。

「認め高め合う力」を育てることで、互いの心が通い合い、学習や行事への取り組み、あいさつ活動や掃除活動などから、対話を通して心を磨く。その中で、互いにいろいろなことに気づき、認め合い、高め合うことができる力や心を育てていくことを目指す。

- (3) 互いの心が通い合う、対話力の育成のために  
 対話力とは、**互いを理解するために、本音と本音の話し合いをすることであり、信頼関係を築くためのコミュニケーション**である。そこで、以下の活動による力の育成が必要であると考える。
- ① コミュニケーションの機会をもたせる活動。(コミュニケーション能力)
  - ② 学級経営の強化から人間関係能力を育成する活動。(人間関係能力)
  - ③ 共感的に理解する活動。(他者理解能力)
  - ④ 自分の考えや気持ちを相手に表現する活動。(自己表現能力)
  - ⑤ 仲間との協働の中で、問題解決能力を育成する活動。(問題解決能力)
- (4) 「通い合う心」の育成のために  
 「通い合う心」の育成のためには、「**仲間との対話を通じて、主体的に取り組む場面**」を積極的につくる必要があると考える。そこで、
- ① 授業や講演(講座)では、**ペアやグループなどの対話を行う場面**を多く取り入れる。
  - ② 各活動場面では、**見通しや目的意識や相手意識をもたせ、自分の考えや仲間の考えを共有し、活用する力**を付けさせる。
- (5) 本年度の重点的な取り組み  
 昨年度までの課題を踏まえ、心の醸成のため、道徳教育と地域との連携に目を向けた取組を通して、いろいろなことに気付くことができる目線を育てていく。
- ① 道徳教育、「特別の教科 道徳」の授業の充実について  
 本年度も、対話を通じて生徒が主体的に取り組むことができる場面が多い道徳の授業の充実化を図る。授業は、学級担任のみならず、ストレス・マネジメント等、SCや外部講師とのコラボ授業も取り入れる。また、**現職教育において、教員の模擬授業から授業改善を考える。**

<展開例>名古屋市の教育施策：「**なかまなビジョン**」を踏まえる。  
 【教材・課題】：一人一人が学習の見通しと自分の考えをもつ。  
 ↓  
 【交流活動】：ホワイトボードを使い、対話を通して共感や対立が生まれる。  
 互いが納得する考えを模索する。  
 ↓  
 共感する部分を取り入れる。  
 考えが変わる。  
 【相互評価】：対話を通して互いのよさを認め高め合い、心が通い合う。  
 ↓  
 結果、仲間への関心が高まることにつながる。  
 【自己評価】：振り返りから自分の考えを見直し、主体的に学びを深める。

★ 各学級に配置したホワイトボード、イレイサー、三色ペン(各クラス10)を有効に活用する。

② 地域との連携について

学校評議員、並びに、PTA役員や保護者の意見・提言を基に、家庭や地域社会の相互理解・連携を推進し、地域に根ざした開かれた学校づくりを推進する。そのために、学校通信・学年通信・学級だより・保健だより・学校ホームページ等による広報活動を充実させ、実践の具体的内容について情宣活動を行い、学校・家庭・地域社会等の連携を図る。

なお、本年度も、学習指導部・生徒指導部・特別活動指導部・健康安全指導部の4部会を中心に推進していく。また、この推進は、学校だけで行うのではなく、家庭や地域などの連携も視野に入れて進めていきたい。

(6) 各部会における育てたい資質や能力、態度

① 学習指導部 (※名古屋市立小中学校指導方針より)

- 各教科の授業を通して、児童生徒一人一人の学習状況や興味・関心を的確に把握し、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育み、自ら課題を解決しようとする力を育成する。

② 特別活動指導部 (※名古屋市教育課程より)

- 集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的・実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、必要な資質・能力を育成する。

③ 生徒指導部

- 学校生活全般を通して、礼儀正しさや時間などの基本的な生活習慣、集団生活のルールやマナーなどを身に付けさせるとともに、自主的に判断し、行動することができる健全な生活態度を育成する。

④ 健康安全指導部

- 望ましい生活習慣を身に付けさせ、健康・安全で活力のある生活を送ろうとする態度を育成する。

(7) 学校努力点を達成するための各部会の役割

担当部会	目標	目標とする生徒の姿
学習指導部	<b>認め高め合う力 通い合う心</b>  <b>－仲間との対話を大切に、主体的に取り組む活動を通じて－</b>	自分の考えを発表し合うことで、仲間の考えの良さに気づき、心が通い合う生徒
特別活動指導部		自他の良さを理解し、互いに心を通い合わせることができる生徒
生徒指導部		校内や地域において、自主的に、相手の顔を見て気持ち良いあいさつができる生徒 自分の思いを人に伝え、相手の気持ちを理解しようとする生徒
健康安全指導部		自分のことだけでなく、一歩進んで人のためになる行動をすることで、心が通い合う生徒

(8) 推進計画

- ① 企画委員会・職員会議で到達目標を確認する。
- ② 各部会で、生徒にどんな姿が見られたらよいとするのか、目標とする生徒の具体的な姿を決める。
- ③ 各部会で、目標とする生徒の具体的な姿を達成するための手だてを決定する。

※手立てを考える際には、全体で共通したものとするのか、各教科や学級担任ごとの手だてとするのかを決める。

(例)

- 全体で共通した手だて

担当部会	目標とする生徒の姿	手だて
学習指導部	自分の考えを発表し合うことで、仲間の考えの良さに気づき、心が通い合う生徒	机をU字型にした学習隊形の授業

(例)

- 教科ごとの手だて

担当部会	目標とする生徒の姿	手だて
学習指導部	話し合い活動を通して、互いに良い点や改善点を出し合うことで、認め高め合う力が育つ生徒	(国語)ホワイトボードを使った小グループの話し合い活動

- ④ 各部会で、生徒や保護者、職員、地域の人に実施するアンケートの質問内容を決定する。

※ アンケートの質問内容は、目標とする生徒の姿が達成されたか、手だてが有効であったかを検証するためのものとする。

担当部会	目標とする生徒の姿	手だて	アンケートの質問内容
生徒指導部	自主的に時間を意識できる生徒	日頃の声掛け	時間を意識して行動することができたか。

- ⑤ 実践を行う。  
 ⑥ 修正を行う。  
 ⑦ アンケート結果や学校評価を基に検証し、課題を明らかにした上で、来年度の方向性を決める。

【令和3年度予定】

4月1日(木)企画委員会・職員会議	目標の検討
4月5日(月)努力点各部会	目標生徒・手だての検討
4月16日(金)努力点推進委員会	各部会の目標生徒・手だての共通理解
5月上旬 努力点各部会	前期実践に向けて検討
5月13日(木)職員会議	前期実践に向けて共通理解
10月上旬 努力点各部会	後期実践に向けて検討
10月14日(木)職員会議	前期実践報告と後期実践に向けて
2月1日(火)努力点各部会	後期実践報告と本年度のまとめ
2月17日(木)年度末反省	本年度の各部会紙上発表
3月10日(木)職員会議	本年度のまとめと次年度に向けた検討

(9) 保護者や地域に向けて

- 学校努力点テーマ説明
  - 4月14日(水) 学校集会：生徒向け
  - 4月22日(木) PTA総会：保護者向け
- 学校努力点テーマを踏まえた学校開放日(学期に1回)
  - ・・・記述式アンケート実施
- 学校努力点テーマを踏まえた生徒向けアンケートの実施  
(学習面・生活面・特別活動面・健康安全面)
  - ・・・6月、1月の年間2回実施(前後期1回ずつ)
- 学校努力点テーマを踏まえた学校行事の公開
  - 10月6日(水) 体育大会 アンケート実施
  - 11月11日(木)・12日(金) 文化発表会 アンケート実施
- 学校評価(1月：生徒・全保護者) アンケート実施
- 学校通信・地域通信の発行(アンケート結果の公開)
  - 11月上旬(体育大会後) アンケート結果公開
  - 12月上旬(文化発表会後) アンケート結果公開
  - 2月中旬(学校評価後) アンケート結果公開
  - 11月、3月中旬(第2、3回学校開放日後) アンケート結果公開